

令和3年度 大田区区民協働推進会議（第3回）

日時：令和3年11月11日（木）

場所：消費者生活センター大集会室

【議題】

- 1 委員の活動紹介
- 2 実践している連携・協働事例についての意見交換
- 3 その他

【出席者】

委員：中島・小林・中平・渡邊・酒井・中原・堀江

事務局：地域力推進部長・区民協働担当課長・区民協働担当係長・区民協働担当1名・協働推進アドバイザー1名

【会議録】

事務局	<p>定刻になりましたので、令和3年度 第3回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日は牛山副会長から御欠席の連絡をいただいております。ただいま、委員9名のうち、小白木委員も遅れていらっしゃるようですので、7名の方に御出席いただいておりますので会議は有効に成立したことを御報告申し上げます。</p> <p>開会にあたり、中島会長にご挨拶をお願いいたします。</p>
会長	《会長あいさつ》
事務局	ありがとうございました。ここからは中島会長に進行をお願いいたします。
会長	今井部長から挨拶をお願いいたします。
部長	《部長あいさつ》
事務局	会議を始めさせていただきます。お手元の会議次第に沿って進めたいと思います。最初に、委員の活動紹介について、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>お手元に配付資料1をお配りさせていただいております。こちらにつきましては、9月に行われる予定だった第2回区民協働推進会議が新型コロナウイルスの感染拡大の影響で書面会議とさせていただいた際に、資料として送付しました委員の皆様の活動紹介を改めて本日もお配りさせていただいた次第でございます。</p> <p>今回、改めてとなりますが、各委員の皆様からコロナの中での活動、または近々の活動の状況であるとか、そういったところを補足してお話いただければと思います。</p>
会長	<p>コロナについて、困難についての近況や感じたことでも結構ですので、2分程度でございますが、順にお知らせください。</p> <p>《委員自己紹介》</p>
会長	<p>皆様、ありがとうございました。</p> <p>続きまして、「実践している連携・協働事例についての意見交換について」、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	まず参考資料1を御覧ください。こちらは前回の書面会議資料「令和3年度区民協働

	<p>推進会議調査・研究について」の資料となっております。この資料におきまして、今年度はこれまでの区民協働の取組の検証と情報整理を行い、今後の議論で実践につなげていきたいとさせていただき、ご確認いただいているかと思っております。その後、委員の皆様からご意見等ございましたので、今年度の調査・研究については、お示しした内容にて進めさせていただくということによろしいでしょうか。</p> <p>《委員一同承認》</p> <p>事務局 ありがとうございます。</p> <p> それでは、説明を続けさせていただきます。これまでの区民協働推進会議の取組等の情報整理として、参考資料２・３を作成いたしました。先ず、参考資料２をご覧ください。A３の縦の資料ですが、こちらは区民協働推進会議が平成２１年度から令和２年度までに検討してきたテーマについて整理した資料となっております。</p> <p> 続きまして、参考資料３の地域力推進課区民協働担当が取り組む事業概要について、をご覧ください。こちらにつきましては、区民協働担当の現在の業務内容をまとめた資料となっております。</p> <p> また、令和２年度地域力応援基金助成事業活動状況報告書を合わせて配付させていただいております。こちらは、令和２年度に採択された区民活動団体の活動を冊子にまとめたものとなっております。</p> <p> 以上のとおり、これまでの区民協働推進会議の取組等を整理いたしましたので、ご確認お願いいたします。</p> <p> 今後についてですが、連携・協働の実践に向けまして、区民活動団体の連携・協働の情報を得るため、事例収集の調査を提案させていただきたいと考えております。</p> <p> ただ、どのような調査をするかといった具体的な提案までは至っていないので、これから事務局案を作りまして、また会長とご相談させていただきながら、委員の皆様にお示ししてご意見いただいて、今後の調査につなげていきたいと思っております。どういった団体までお声がけをして調査をかけるかを含めて、またご相談させていただきたいと考えております。</p> <p> その前段として、まずは委員の皆様が実践している連携・協働の事例についてこの場でお話いただけると、サンプル事例の抽出につながり、方向性も見えてきますので、今後の調査につなげていきたいと考えております。そのため、先ずは各委員の皆様から実践しているあるいは他団体で見聞きした連携協働の事例について、お話を伺えますでしょうか。</p>
会長	<p> ただいまの説明の内容につきまして質問、御意見がございましたら御発言をお願いいたします。</p>
酒井委員	<p> 中央三丁目の観音通りの商店街の事例ですが、今年、地元の入新井第一小学校が創立９０周年ということで商店街として何かできないかなということで、商店街の街路灯にフラッグをかけることを計画しています。タイトルは入新井第一小学校創立９０周年で、幅６０センチぐらいで長さ１３０センチのフラッグで真ん中を白抜きにして、そこに子供たちに絵を描いてもらうために学校側をお願いしたところ、コロナの関係や創立記念日に向かっての事業等でいろいろ忙しいということで来年になってしまうというお話でした。そこで、PTAの方を通じて学童と放課後クラブをお願いして、その子供たちに絵を描いてもらうことで進行していて、あと１０日ぐらいで完成予定です。PTAや学校側と商店街が一緒になってやるという一つの事例だと思います。</p>
会長	<p> ありがとうございました。事例の発表がございましたけれども、他の方、ありますか。</p>

中原委員	<p>社会福祉協議会は、もともといろいろな団体をつなげていくのが一つの役割なので、区民協働を意識してというよりも地域福祉という範囲内の部分が多いのですが、他の団体と協働しているところがありますので、ちょっと思いつく限りを少しお話ししたいと思います。</p> <p>一つは子供食堂です。子供食堂マップというのを作成しました。その時は21団体でした。それが、この2年ぐらいで31までに増えてきています、そのマップを作る時、子供食堂がこれだけあるのだから、子供食堂の連絡会を作ったらどうだという話がありまして、その事務局に社協がなって子供食堂の連絡会をやっています。どのようなことを行っているかといいますと、情報交換です。一つの子供食堂が寄付をたくさんもらったが、うちではちょっとさばき切れなかった場合に他の食堂に分けて助け合うとか、いろいろな相談事も受けたりしますので、どういう相談事をやっているかといった情報交換やお互いに助け合っているのが子供食堂連絡会です。</p> <p>もう一つが、大田区には社会福祉法人が41あります。池上長寿園や幸陽会という知的障害者の施設を運営していたり、生活実習所を運営していたりするのですが、社会福祉法人というのは税金を免除されているので、やっぱり地域貢献をしたい、しなきゃいけないということで、社会福祉法人の協議会を作って社協が事務局になって取り組んでいる最中です。いろいろな取組をしようとした矢先にコロナになってしまい、今、具体的な活動はしてない状況ですが、生活に困っていたり、一人暮らしのご家庭の子供さんを集めて居場所を作ったり学習みたいな部分を見たりといった活動を続けてきているので、今後、またそういったものをまた改めて作っていききたいなということを考えています。とりあえず二つの事例をお話いたしました。</p>
中島会長	<p>いいお話を伺いました。二つほどのお話ですけれども、社協が提案していることですが、PTAの皆さん、こういった事例をつなげていく意思はありませんか。この会議体はどのように連携をしたらよいかということを議論するところですから、皆さんが自分の組織はこの活動と連携したほうが良いといったことをそれぞれが実現する方向にもっていただくといいと思います。そうしますと、自然と、一つ二つ事例が生まれ、またこれが例になって、どんどん広がっていきます。</p> <p>今、子供の貧困というのはすごく言われているわけですから、そういうものを社協と学校やPTAが連携をとっていろいろ話し合いの結果、じゃあ、こういうことをしようとなった時に、課題がでてくることもあると思います。中原委員、課題が生じた場合でも社協は対応できますか。</p>
中原委員	<p>はい。連携・協働をどう作るかということは、本来的な社協の仕事でもあるので、どの団体もやりましょうみたいな、そういう話ではないのだと思います。二つの事例の話をしてしまいましたが、フードドライブ事業は蒲田のグランデュオの駅ビルと年2回タイプアップしてやったり、食料のパントリーなんかは糀谷のスーパーマーケットと一緒にやっています。なので、小さなこととか、ちょっとしたことで一緒にやっていただければいいのかなというふうに思います。</p> <p>商店街さんもフードドライブやるときに、社協と一緒にやりたいと言ってくれれば、我々は馳せ参じます。保護司の活動も我々とも非常に縁が深いと思いますので、何かあれば声をかけていただきたいと思います。今はスクールソーシャルワーカーともいろいろつながりがありますので、学校のPTAの方々とも何かの折につながるところがあれば、我々ができることがありましたらやっていきたいなと思います。また、災害の分野でも災害ボランティア活動をやっておりますので、その辺でつながっていただけることもあろうかと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>

会長	<p>制約や制限もあるので、何でもかんでもというわけにはいかないと思いますが、やはり、そういう連携があるのだという事実がありますので、話し合いをしながら、活動を広げていくことは社協のPRにもなりますし、問題があったら問題提起していくことも大事じゃないでしょうか。他に、ご意見ありますか。</p>
小林委員	<p>そうですね、連携というところで言うと、私も経過観察で伺った男女共同参画おおたと私がもともとキャリア教育を始めた一般社団法人おおた助っ人の連携事例として、男女共同参画おおたのLGBTの活動で講師役をやられている方にうちの団体でLGBTの知識を教えるために講師として来ていただいて勉強会を10月の最後の金曜日ぐらいにやらせていただいたことは、連携事例の一つかなと思います。</p> <p>あと、昨日中学校で教育長との教育懇談会というのがありまして、区工連さんと学校が連携して実施している職業体験という活動があるのですが、ただ、どうしても年々受入先が少なくなっていたり、特にこのコロナの中では受入れが難しかったりする中で、今度は区工連さんだけでなく、区商連さんとも連携していきたいということを担当課長と昨日話をしました。小学校の町探検とか職業体験の部分というところで、もちろん一部の商店街さんと連携をしているところはありますが、もし可能であれば区工連と同じくらい商店街を挙げて子供たちの受入態勢みたいなのができるようになってきたら面白いよねといった話を教育委員会の課長と話をしていたところだったので、そういった連携ができてくると子供たちが地域に興味を持つようになり、地域で子供たちが行ったことがあるお店に親が行ってというかたちになってくると、地域がまた面白いかたちで発展していくのではというところがあるので、こうした連携を今後していきたいなと思っています。</p>
酒井委員	<p>ちなみに、町探検じゃないですけど、うちの商店街の何店舗かに子どもたちが来て、いろいろお話して、私も大変楽しかったです。そういう活動はうちの商店街と地元の小学校や中学校としているところですね。</p>
中平委員	<p>1点、事例報告ですが、私は羽田の二丁目西町町会というところなのですが、ここは羽田地区連合会の中の一つの町会で、羽田地区連合会は20の町会があります。今年4月から羽田の魅力PR分科会という新しい分科会を立ち上げました。ただ、コロナで全然会議ができてなかったのですが、この間、ようやくできました。</p> <p>羽田の魅力PR分科会とは何のために立ち上げたのかということですが、羽田という名前がつくと羽田空港が有名で、今、イノベーションシティだとかソラムナードとか、いろいろ集客をするための施設ができていますが、羽田の町そのものは素通りというか、品川へ行くとか、蒲田か川崎に行くための素通りの町であって、町そのものは全然活性化できてない。町をどうすれば活性化できるかという話し合いをするための分科会ですが、ずっと会議ができていなくて、この間、初めて会議をやった時に、いきなり宿題を与えられまして、その内容は何かというと、羽田の20町会もご多分に漏れず、なかなか厳しい状況があるということで、各町会をどうしたら元気にできるかということがまず第1回目の議題になりました。</p> <p>それで、とりあえず何をするかということで、町会ごとにPRパンフレットを作ったらいいのではないかとということで、パンフレットをいろいろなところから集めてきて、見やすく、引っ越してきた人にその町会に入りたいと思わせるようなパンフレットを作ろうと。また、うちの町会はこんな感じみたいなことが一目で分かるキーワードや町</p>

	<p>会ごとにどういった活動をしているか、1年間のスケジュールやどれぐらいの人が参加するかといったことをアンケート形式で集めて、まず実態調査をしましょうという状況になっています。</p> <p>それだけではなかなか問題は解決しないと思いますが、所属する町会が元気でなければ、町そのものもなかなか元気にするのは難しいと思うので、その第一歩をこれからやろうということになりました。</p>
会長	<p>いいお話ですね。それで、どこまで進んでいるのですか。今おっしゃったことは全部完了しているのですか。</p>
中平委員	<p>いや、これからです。</p>
会長	<p>今、計画中ということですか。</p>
中平委員	<p>そうです。</p>
会長	<p>計画を立てられて実施なさったら、またお知らせしてください。報告していただくと助かります。どこも真似したいことですよ、実際。各町会の実態をつかむというのはいいですね。みんな、いろいろなことをやっていますからね。</p>
中平委員	<p>そうですね、町会ごとにいろいろなことをやっています。</p>
会長	<p>それを表にして、みんな、やりたいことをやり出せばいいわけで。</p>
中平委員	<p>それで、取りあえず、各町会のイベントのスケジュールを羽田特別出張所のでかい掲示板に、例えば防災訓練は何々町会の防災訓練、次は何月何日からと、そういうふうに、誰でもが羽田特別出張所に行けばどこの町会が今、何をやっているかというのが一目瞭然に分かる、そういうスケジュール表ですか、そういうのも作る予定になっているみたいですね。</p>
会長	<p>出張所には各町会の年間行事を上げてはあります。ですけど、よその町会は知らない。ですから、一覧表にしてみんなが一緒に共有するということですね。</p>
中平委員	<p>そうです。</p>
会長	<p>分かりました。ぜひやってみたいと思います。ほか、皆さんご意見ございませんか。</p>
堀江委員	<p>今の各自治会・町会様の情報の共有といったところは、とても重要な視点でありますし、私どもも、これからはしっかりと実践していかないといけないかなということで、受け止めさせていただきました。</p> <p>あと、事例紹介ということで、私ども、いろいろな団体様の事務局とかも兼ねているところもあるので重なっちゃうところもあるのですが、コロナ禍の中で、コロナワクチンの予約に際して、国や東京都は予約方法をシステムやセンターへの電話を基本にしたもので、どうしてもつながらないとか、パソコンとかスマホで不慣れな高齢の方を中心として、そういった機材に不慣れな方がいらっしゃるだろうということで、今井部長を初め、地域力推進部の中で何とか地域に根差した出張所としてできることはないかということでみんなで相談しまして、予約受付システムに入力に不安がある方への</p>

	<p>支援を中心にやっていこうではないかということで、今年6月ですか、区内18か所の特別出張所で予約支援相談の体制を作りました。決してこれは、私どもの出張所だけでできたことではなくて、機器、そういったパソコンやスマートフォンの操作に得意な方、また、そういった情報をお持ちの、例えば地域包括支援センターさんとか自治会・町会の会員の皆様で、そういった機器の操作が得意な方、それから日本工学院の学生さん初め、いろいろな大学生、高校生もいらっしやったのかな、そういった学生さんも集まっていたら、ご高齢の不慣れな方への予約支援というものを展開しまして、件数として、予約支援全体で約6,200件を超えるような支援につながりました。現場で、そういった、自分たちにも、もしかしたらこういう支援はできるのかもしれないという一つの形が見えた、そういった関連団体、高校生、大学生みたいな方々が、それを自分たちの活動フィールドの中に持ち帰っていただいて、出張所を会場としてではなくて、同じことを、それぞれの活動しているところで持ち帰って展開していただいたというような形で、こうした取組みが広がったというような事例も見聞きしているところがございます。</p> <p>こういったところで、ご高齢の方々が予約受付システムへの入力に困難な事例が回避できたというようなことが、地域の中のいろいろな団体の連携、力が連携した形で克服できたということで、非常に典型的な事例の一つかなと思います、紹介させていただきます。</p> <p>今後もワクチンを初め、コロナの関係では区の事業をいろいろ展開していくと思えますけれども、区だけでは決してできないものだと思っておりますので、また皆様のお力添えをいただきながら、一つ一つ対応していきたいと考えているところがございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。区から説明をお願いしたいのですが、区の方からワクチンの接種のことであるとか、そういう伝達は町会に来ております。ただ、町会長がどのように指示するかが問題です。これは、全部が全部、本当に指示できるわけはございませんので、なかなか徹底しません。そのことについて、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>今、堀江所長が話したことですけれども、2月以降、また高齢者の3回目のワクチンが始まります。また同じようにご不便な方もきつといらっしやるでしょうから、今から準備しております。その際に、6月に経験した顔の見える関係、地域包括だとか民生委員の方とか町会の方とかがもうおりますので、そのネットワークを生かして、またやろうと思えます。やはり、自治会・町会の方に伝達して、そこでやってもらうというよりも、出張所って誰もが身近で、文化センターとかの場所が分からなくても、出張所があるということは、その存在というか、建物の存在というか、それはかなり誰もが知っている、そういうランドマークというか、身近な施設でもあるので、そこに集まって、そこを舞台にして支援をするというのは効果的なのかなと思っております。ですので、その出張所を中心に、そこに集めて皆さんの力をお借りするという、そういう仕組みがいいのかなと思っております。答えになっているでしょうか。</p>
会長	<p>ありがとうございました。地域は、そんなふうに一応なっております。ですから、一番身近なところに行って、その接種を受けるということは非常にいいことなのですが、それでも全員接種できない。回覧を回してもできない。私は回覧をチラシに変えてポスティングするんです。簡単に書いて、何月何日、ここでしますから、ぜひということを書いて、もう1軒ずつ、会員だけじゃなくて、未加入者もみんな含めてこういう時はや</p>

	<p>ります。やっぱりそういうふうにはやりませんと、全体に周知はなかなかできかねますね。ですから、あらゆる組織とか団体とか、みんな、そういう手分けをしながらやっていくことも大事じゃないですかね。他にご意見ありますか。</p>
<p>中原委員</p>	<p>私ばかりがしゃべってよろしいでしょうか。大丈夫ですか。</p>
<p>会長</p>	<p>どうぞ。</p>
<p>中原委員</p>	<p>今の話の中で、中平委員がおっしゃいましたけど、情報をいかに伝達するのかというのが、本当に大事だなと思います。しかし、全てに情報を届けられるわけではないので、大きなところはざっと出張所なり行政なりが行う。羊羹でいえば、箱の中に羊羹があるとすると、大きなさじでぱつとすくうというのは、やっぱり行政的な、出張所的な仕事だと思います。ただし、隅っこにちょっと羊羹が残りますよね、情報ができない人。その辺を小さなさじですくっていくというのが、社協なり地域なりの役割でもあるのかなと感じています。なので、今のコロナの話でいくと、私どもは、一つには、パソコン同好会という区民活動団体とタイアップして、ある介護事業所が、私たちのところの事業所を使っていいから、1週間なら1週間、そこで予約支援をやっていいよという話になって、やりました。そういった網の目のような、ちょっとした部分も必要です。それから、予約をしても一人暮らしの人で病院に注射しに行くのに行けないという人が出てきた。それで、はたと思ひまして、社協はそのためのボランティアを募りました。そして、60人来たのです。大学生からいました。これは、無料です。本当にボランティア。予約はできたけれども、病院まで行くのに車椅子で行くとか、一人で行けないというのがありまして、その支援をしました。なかなか行政はそこまで支援がいかないですよ。なので、大きなさじでぐつとすくう部分と、やっぱりそれで残った部分を、いかにフォローしていくかという、そういう仕組みも、分担というか、そういうのも必要だなというふうに思います。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。 部長、私、区の組織も連携・協働していただきたいと考えているんです。例えば、福祉に関することは、社協ももちろんそうですけれども、高齢や福祉であるとか、いっぱい部署がありますよね。それから包括。これ、みんな福祉を担っておりますので、そういうところと連携していただくと、もっと周知徹底ができるのではないかなと思っています。私たちだけに連携が必要だよと言われても、行政もそういうふうに取り組みをさせないと、非常に何か複雑怪奇でして、同じ目的があるのに、あっちからこっちから、こっちからあっちからと話を聞かなきゃならない羽目になったりしますので、その辺はまとめてもらって一括したものに、そこに税金を下ろすというご配慮を、ぜひぜひお願いしたいと思っています。</p>
<p>事務局</p>	<p>今、事例で、コロナの件で話が出た、事例を通して出たテーマというのは、情報の下ろし方と、それを共有して解決のために連携すると、そういうことだと思いますが、本当にそれは重要だと思います。せっかくなので、今、区が考えていることで、それに対して連携するには情報をどうしてほしいかとか、どういう仕組みがいいのかっていうのをお聞きしたいと思います。 今、区では、来年度から若者の相談窓口というのを作ろうとしています。今、若い人の自殺や20代の自殺が増えていると言われていて、相談するところがなかなかないというところで、行政で20代30代の若者に対して相談を受ける窓口と居場所を設置します。そこで、相談に来た若者を居場所につなげたり、あとは自立のための参加支援をしたりする時に、今日お集まりの皆様のところと連携ができそうな感じがします。居場所だとか、あとは、例えば自治会・町会であれば、人によるとは思うのですが、お祭りに参加できるような子がいればお祭りに参加してもらおうとか、それぞれの商店街にも居場所があれば紹介するとか、青少対の事業に参加してもらおうとか、そういうように</p>

	<p>つなぐことはできると思います。その際に、皆さんであれば、行政にどのような情報の提供をしてほしいとか、どのような連携をしてほしいとか、どんな仕組みがあったら参加できるとか、こういうことをしてほしいというのがもしあれば、教えてほしいなと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>情報提供する仕組みを作らなきゃいけないですね。どういう方法で情報提供し合えるか。お互いにしなきゃいけないですけども、どこか基を作らなきゃ駄目だと思います。いつも基に情報が集まってくるようにしなきゃいけない。だから、窓口ですよ。区の窓口はどことか、どことどこととかって、複数あれば、それはそれでいいですけども、どういう関係者がどのようにやるとかというのをある程度指示しなきゃ駄目かな。</p>
<p>事務局</p>	<p>例えばAさんという若者がいて、このAさんはなかなか社会に出られない、引きこもっているけど少し参加したいと思っている。このAさんに対して、じゃあ、お祭りはどうですか、青少対のこういう事業はどうですかというように、相談員がヒアリングして、マッチングしますよね。その時に、いっぱいいろいろな受皿があるといいと思うんです。無理なことはしてもらっても続かないと思いますので、それぞれの皆さんの得意分野とか、そのフィールドに合わせてマッチングをするということで、コーディネーターとか、それが重要だと思うんですけども、皆さんであればどういう仕組みがあれば受入れやすいのかなと。逆に断る場合もあるわけですよ、それはできないとか。唐突ですけど、何でもいいのでご意見があればお聞かせください。</p>
<p>会長</p>	<p>あまり面倒くさいと駄目ですよ、人が取っつかない。簡単、明瞭に。しかも高齢者が、そういうことを一番重要としておりますので、本当に分かりやすく簡単にやりませんと、なかなか取っつかないですよ。</p>
<p>中原委員</p>	<p>こういう仕組み、今、お話出ましたけど、ご意見ございますか。本当に実現すればいいなと思っております。</p>
<p>中原委員</p>	<p>私ばかりしゃべっていいですかね。 この間、今井部長にはちょっとお話しましたけれども、そういった案件が社協にも来ます。地域福祉コーディネーターがコーディネートをしているのですが。この間も似たような案件がありまして、ある高齢者の居場所の受付をお願いしたら、すごくはまりました。その方は引きこもりですが、手芸が上手だった。そこで、高齢者の居場所のところで管理しながら自分が作った手芸をお披露目したり、教えたりしていい関係になっていく。そういうのが欲しいということですよ。これは、区民活動団体と日頃から話し込んで、お互いの様子を知って、コーディネーターがよく知らないとできないですよ。お互いに、これを見るだけじゃなくて、ああいうところにはあの人があったとか、ああいうことをやっているだとか、あそこは合いそうだねと、我々相談される側が各々の活動内容を、あるいは人を知る。あの人がいるなら大丈夫かなというのは、結構うまくいく。あそこの祭りは、僕行ったけど楽しそうだったから、あそこならこの人に合うかなとか、そういった関係性とか、信頼関係とか、その辺がコツになるような気がします。</p>
<p>小林委員</p>	<p>私自身が12年ぐらい前に、司法書士として千代田区で開業していたのですが、大田区で事務所をやろうと思った時に、司法書士という技能を使って何か地域のことができないかなって思いまして、区役所や消費者生活センター、社協さんにもお邪魔しましたが、どこにも解決策がなかった。なかったのが、専門家仲間と自分たちでその団体を起こして、その存在理由みたいなものを作るということで、相談会なんかも始めました。相談会は平成23年と24年でこのスタートアップ助成をもらったりとかして、今も開催していますが、やっぱり、どこに行ったらいいかというところはずっと変わってないだろうなというのはあります。ここの委員に最初手を挙げさせていただいた時に、さきほど部長もおっしゃっていたような出張所の活用というところがすごく足りないなという</p>

	<p>ところと、この事業でやっている区民活動コーディネーターの養成講座を私も受けたのですが、そこの養成講座を受けた人も結局活用されていないなというところがすごくある。資源を使い切っていない感じがすごいです。</p> <p>ただ、この養成講座と一緒に受けた方が池雪小学校でキャリア教育的なものを担当されてらっしゃった方で、我々がそういう専門家の団体をやっているというところで声をかけてくれて、今度、ゲストティーチャーを派遣してくれないかという話が来たりしました。今も、このコーディネーター養成講座を受けられた方で仲よくしている方はいますが、さきほど中原委員もおっしゃっていたみたいに、じゃあ、小林さんのところで何か教えてみたいな話はよく来ますが、それってそこまで私がいろいろ動いているのでそういう形になっていますが、その末端というか通常の方がそういったところとどうやって接点を持つかとなってくると、やっぱり、今まで作ってきた協働のコーディネーターとその出張所をうまく活用する仕組みなのではないかと思います。</p>
渡邊委員	<p>いろいろ話を聞いて、取りまとめするところがないと、個々でやっても本当に始まらないと思います。だから、各部署が横串刺すようにしてやらないと、1年たっても、またこんな話をしているのかとかなると思います。</p> <p>それとあと、出張所も大切だと思いますが、スポーツクラブでこういう行事をやっていると紙ベースで渡しても、絶対見ないよって若い子に言われました。若い子たちはSNSとか、本当にそういうのが当たり前。すぐそれで調べて、仮に町会で何をやっているというの、それで見たりしているようです。だから、こちらもインスタグラムとかツイッターとかやっています。いつ見ても同じ画面だともう二度と見なくなると言われたので、どんどん更新して楽しいものにしないといけない。どこも年齢が上がっていて、知らない間になくなっちゃうというクラブもあります。自治会町会もどういうふうに増やしたらいいのかなと思っています。それには、やっぱり魅力ある地域を作っていかなきゃいけないのかなと。だから、その辺をどう進めたらいいのかなとか思っています。</p>
会長	<p>確かにデジタル化がどんどん進んでまいりましたね。さっき申し上げたように、純粋なボランティアということで町会・自治会の役員が決まりますが、なかなか若い人が入ってこない。どうしてもデジタルに弱い。町会にパソコンがありますから幾らでも対応はできます。やれる人間を募集してお願いします。確かに仕事としてあなたは役員に来てくださいよと言うと、絶対やらない。遊びの中でお願いしますということ、そういうことを得意としている人が多分いると思うから、別途募集をする。そういうやり方でないと、育たない。ですから、今までみたいに同じ役員が何年もやってマンネリ化するということはもう終わりにしないといけない。行事ごとにそれに携わる人間を募る。結構集まる。若い人が集まる。ですから、やり方、方針を少しずつ変えながら、逆に興味を持ってもらわないと町の中の維持管理であるとか、安心・安全なまちづくりが繋がってまいりません。</p> <p>町会って、皆さんどう考えてらっしゃるか分かりませんが、町会の存在って戦後70年を迎えておりますけども、日本の復旧、復興を助けたすごく大事な組織だと思うんです。ですから、これを今の時代に合わせてどうやって活性化するか、これが痛い。</p>
渡邊委員	<p>いいですか。</p> <p>あるサッカークラブでしたけど、コーチが子供たちの動きをビデオカメラでずっと撮っていたんですけど、一人しかいないのでいろいろ他にできない。でも、親たちはしっかり自分の子供をしっかり撮っている。それで、そのコーチが、すみません、このビデオで撮って、皆さんで共有したいので、ずっと撮ってくれますかというのと、やっぱり子供のためだと見に来ている親もそれなりにやってくれます。なので、できる、できないはあると思いますが、それを誰かに頼ってやってもらってもいいのではないかと。もしそれで、その人が光れば、その生きがいとか、居場所が決まるかなとも思います。今思いましたが、防災訓練もきつと誰かが写真を撮っていると思いますが、役所の人じゃなくて、子供がいればきつと親が絶対に撮りに来ると思うので、カメラが</p>

<p>会長</p>	<p>得意なお父さんお母さんをうまく逃さないようにしていきたいなと思いますけど、いかがでしょうか。</p> <p>そうですね。中原委員、共存社会と言うのでしょうか、若いも若きも老若男女、みんな共存しようと目的を一つ持って、そういう社会を作ろうと盛んに社協では言っておりますが、なかなか難しく。若い人で年寄りと話を合わせるのは苦手だという人、いっぱいいますよね。それはそうでしょう、時代が違う中でみんな育ってきたわけですから。だから、そこを何とかうまく温故知新という言葉があるように、古いことだっていいこともあるから、これから目的に向かって新しいことをやるなら若い人の意見を聞き、昔のこともいいことは残しつつ、新しいことに進んでいこうと。言うことは簡単ですけどね、実践するとなるとその何分の1もできませんね。しかし、やることに意義がありますからね。少しずつでもやっていこうということです。</p> <p>ほか、ご意見ありますか。</p> <p>どうぞ、事務局何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>いろいろご意見ありがとうございました。</p> <p>頂いた意見では、信頼関係と顔の見える関係を作って、お互いの活動をしっかり中身まで知って、そういう関係ができていると連携も非常にうまくスムーズに行くのではないかということと、あとは情報伝達の重要性ですね、デジタルも含めて効果的に届かせるということが重要だということ。あと、思い切って頼ってしまうということも大切ではないかということ。あとは、若い人に引き継ぐということも大切ですけども、年齢関係なく、みんなで一緒にやろうと、新しいことをやろうということが重要だというようなご意見頂いて、本当に参考になりました。</p> <p>また、区の取組が進み次第、情報提供させていただきますので、その時はよろしくお願います。ありがとうございました。</p>
<p>会長</p>	<p>今日の課題は、要するに、情報、みんなの情報をいかにして区へ情報を上げるかということです。区はその情報を捉えていろいろ指示するわけですけども、もちろんそこには会議があったり、皆さんとの相談があったり、いろいろしますけども、風通しをよくして、話題を共有するというところに努力したいと思っております。今、部長がおっしゃったとおりでございますので、どうやって情報の仕組みを作るかということが課題だと思っております。</p> <p>何かご意見ございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今日は、貴重なご意見を、それから事例を聞かせていただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>今回の参考資料1で、前回の書面で皆様にご提示させていただいた令和3年度区民協働推進会議調査研究について、こちらの趣旨が、冒頭、会長からもお話あったように、人材が不足していて団体の活動も衰退するのではないかと。それは、自治会・町会だけではなくてNPO団体等どこにでも言えるところで、何とかしたいと。何とかするためには、やはり連携・協働が必要だけれども、でもなかなか実践できない。では、どうしたらいいかという中で、一つでも身近で、自分のところでもできると思えるような事例を幾つかでも挙げて、それで皆さんで共有して、皆さんが実践できるようになればというような思いもあつての提案でございました。</p> <p>今後、また、いろいろな今日頂いた事例も踏まえまして調査してまいりたいと思っております。よろしくお願います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、課長からお話がございましたけど、いろんな事例をやはりそれ情報として我々も</p>

	<p>流していくということで、情報をちゃんと区の方でキャッチして、それからいろいろな対応を考える。これは常識ですね。今までそれをやらなかったのがおかしいくらい。</p> <p>仕組みを作るといっても、そんな面倒くさいことは要らないと思います。いろいろ情報があれば、区民協働へ、何でもいいから、どういう形でもいいから情報を報告するなり流していくということによろしいでしょう。</p>
事務局	<p>事例等ありましたら、情報がありましたら、ぜひ地域力推進部の区民協働のほうにお願いいたします。よろしくをお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ご意見、これによろしいでしょうか。事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>事例収集の方法等については、皆様にお示しさせていただき、ご意見を伺いたしております。内容をご確認していただき、準備が整い次第、事例の収集を始めさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは、ご意見ございますか。事務局から報告ありますか。</p>
事務局	<p>9月の書面会議で送らせていただいた際に、今年度、これからある助成金の審査について審査委員のお願いをさせていただいたところでございます。今、チャレンジ、チャレンジプラス助成の募集をしております、11月15日が申請の締切りになってございます。それが終わりましたら、また書類審査・面接審査がございますので、ご担当の委員の皆様には、またいろいろご協力いただくこととなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>その審査について、公募委員から1名ということになりますので、この辺は、また小林委員、中平委員と調整をさせていただきまして決めさせていただければと思います。</p> <p>併せまして、今年度実施している助成事業でございますが、来年度への継続申請が12月から始まってまいりますので、そちらの書類審査にも、また小林委員か中平委員のどちらか1名と、あと中原委員にお願いをしたいと思いますので、今後とも、またちょっと書類審査等、多忙の中、ご協力いただくこととなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。事務局からは、以上でございます。</p>
会長	<p>審査員になられた方、よろしくお願いいたします。</p> <p>次回の日程について、事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>次回は2月下旬に予定をさせていただいております。詳細につきましては、決まり次第、別途郵送でお知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。</p>
会長	<p>会議を終了させていただきます。皆様、本日は、ありがとうございました。</p> <p>《閉会》</p>